

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191000062		
法人名	医療法人社団 福寿会		
事業所名	コスモス苑「おおぞら」		
所在地	岐阜県郡上市白鳥町白鳥429番地6		
自己評価作成日	令和4年11月7日	評価結果市町村受理日	令和5年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2191000062-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和5年3月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

町の中心部に近い住宅街にある環境で、地域の人々と交流を深めながら、地域の一員としての意識を持ち、日々の生活の中で生きがいを持ち、心穏やかに過ごしていただける空間を提供する取り組みを行っている。同法人のグループホームやショートステイなどと連携を取りながら、利用者様やご家族様の希望に沿った総合的な支援に取り組んでいる。また、母体が病院であることから、24時間医療と連携した支援を行っている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは町の中心部に位置し、母体法人である医院及び同一法人のグループホーム、特別養護老人ホームなどがあり、法人間の連携も取りやすい環境にある。母体が医療機関であることから緊急時の対応が迅速に行えることから、本人・家族の安心にも繋がっている。また、看護師、救急救命士等の資格を持つ職員もおり、急変時には専門的なケアを行うことができる。ホームからは、毎月、家族に向けた便りを送付しており、担当職員からの直筆の手紙を添えるなど、家族に寄り添えるよう取り組んでいる。地元の美容室や商店を利用し、地域に根差した事業が展開されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日見ているホワイトボードの上に掲示しており、心にとどめて実践に繋いでいる。	理念は、職員の目に付きやすいよう、タイムカード付近のホワイトボードに掲示し、職員一人ひとりが理念を意識できるよう働きかけている。また、毎月行うケア会議においても、必要に応じて理念の確認を行っている。	理念はわかりやすく、職員間では浸透が図られている。外部の来訪者や家族にも、事業所の理念が確認できるよう、玄関等のわかりやすい場所への掲示や苑便りに掲載するなどの工夫に期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年も前年度に続きコロナウィルスの影響を受けて、地域との交流は少なくなっているが、保育園の子供達の鼓笛隊やお遊戯に來園して下さっている。外気浴や散歩も苑の敷地内で行い、他の施設の利用者様とも交流ができています。	コロナ禍にあって、地域とのつながりは難しい状況ではあるが、利用者は、駐車場や苑庭で、他ホームの利用者や近隣住民と会話を楽しんでいる。また、保育園児が訪問し、鼓笛隊や遊戯を披露してくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方や他の事業所から相談があればいつでも説明が出来るようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染拡大のため出来ていないが、以前は出来ていた。	新型コロナ感染拡大の為、運営推進会議を中止していたが、1月に書面開催にて実施した。今後については、行政とも相談し感染拡大状況をみながら、対面での運営推進会議開催を検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市から介護相談員が来苑される。コロナ感染拡大してからは中止しているが、リモート面談を取り入れ、情報交換を行いながら協力関係を築いている。又、他の事業所との連携もできており、紹介したり受けたりしている。	必要に応じて、行政と相談できる関係性はできている。また、福祉・介護の担当部署のみでなく、災害時における地域の要支援者の受け入れ等、防災担当部署とも連携できるような協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は家族様に相談・説明して許可をとり、毎月のケア会議で検討を行っている。玄関の施錠は安全面から行っているが、中庭や別フロアへは自由に行き来出来るようにしている。	毎月のケア会議において、身体拘束についての学習会を行っている。家族の同意を得た上で、やむを得ず一時的に行う身体拘束についても、利用者の状態と現状を職員間で話し合い、検討しながら解除に向けて取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケア会議で定期的に勉強会を行っている。外部の研修会への参加もある。研修に参加した後はフロアで伝達講習を行っている。		

岐阜県 コスモス苑「おおぞら」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今のところ利用されている方はいないが、今後のために学ぶ機会を作るといいと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	サービス利用開始にあたり、ケアマネージャーがご家族様と利用者様と面談をし、苑の情報を提供している。又、ご家族様の情報も収集し、十分な説明をして理解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の声に耳を傾け、日常会話の中からくみ取るようにしている。 苑の行事・面会・電話対応時にご家族様の要望をお聞きしている。	コロナ禍以前は家族会などを開催し、家族からの意見を聞く機会を多く設けていた。現在は個別に電話などで意見を聞き、運営やケアプランに反映させている。リモート面談は、家族からの提案を受け入れた形でスタートしている。	ケアプラン更新などの機会に、家族の意見を電話で聞いている。今後も、社会情勢の変化に伴って、互いの思いや要望を直接伝え合えるよう、家族とコミュニケーションを図り、更に信頼関係が深まる工夫に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のケア会議や、苑全体の責任者会議で話し合う機会が設けてある。	管理者は、職員と随時コミュニケーションを図り、運営に関しての提案を受け入れている。会議の議題や、研修の在り方について、職員からの提案があると、出来る事は速やかに取り入れ、検討を要する事は試行錯誤しながら改善に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務時間の調整や、協力体制が整っており、働きやすい環境となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や資格取得の情報を常に提供し、スキルアップが出来るようにサポートされている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在はコロナのために出来ていないが、以前は外部の研修や講演会などに、参加していた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に、ケアマネージャーがご本人と面談を行い、希望や生活歴を知り、安心して頂けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前に、ケアマネージャーがご家族様と面談し、入所時にも訪問して頂き、要望などをお聞きし、安心して頂けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様・ご家族様の意見を尊重し、その時の体調や様子などにも気を配り、必要な支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の自主性を尊重しながら、人生の先輩として尊敬の心で接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との協力でケア出来ることもあり、関係が途切れないように衣替え等で来苑して頂いている。その時に様子を伝えたりして、会話が弾むようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染拡大の為出来ていないが、リモートを利用して面会を行っている。 状況によっては(ターミナル)別の入り口からの面会も実施する事がある。	窓越しやリモートでの面会を行っている。中には、2週間に1度、面会に訪れる家族や、誕生日に差し入れを持参する家族もあり、コロナ禍にあっても、可能な限り関係継続の支援を行っている。また、近隣の美容室など、馴染みの人との関わりも支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が良好な関係を築けるよう、椅子の位置など配慮している。 職員が間に入り、楽しく過ごして頂けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様や入院先などから相談があれば対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	施設利用に至るまでの情報やご本人との会話・生活ぶりの中で理解し、職員同士常に話し合いを行っている。 月に一度のケア会議でも検討している。	本人の趣味嗜好や意向をアセスメントし、毎月実施するケア会議や申し送りノートを活用し、職員間で共有を図っている。また、家族の協力を得ながら、本人のやりたいこと・やれることを把握し、支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様・ご本人様から情報収集を行い、把握している。 入浴後はその人に合ったサービスが出来るように心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録に体調の変化、一日の様子を記入し共有している。特に気になることなどは、申し送りノートを活用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議の中で、課題のある利用者様を提案し、意見交換を行っている。	家族には、利用者の状態変化などを電話で伝え、ケアプラン策定についても意見や要望を聞いている。策定したケアプランは、毎月のケア会議において、職員間で共有し、支援の方向性を統一させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の様子は個人記録に記入し、共有している連絡ノートも活用しケアの均一が計れるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者一人一人に合ったサービスを行えるように支援している。		

岐阜県 コスモス苑「おおぞら」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナのため出来ていないが以前はボランティアの受け入れをし、利用者様に楽しんで頂いていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族様の意向に添って受診治療を行っている。主治医が定期的に行っており、状況の判断もしやすい。	かかりつけ医については、入居時に選択することができる。母体法人の医師が、毎週なんらかの形でホームに訪れており、必要があれば随時受診することができる。歯科についても希望があれば、往診にて対応が可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活の中で、利用者様の体調の変化は、看護職又は医師に報告・相談し対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には基本情報と医療に関する情報も提供している。退院後もフォローし利用者様とご家族様の安心していただけるようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ケアマネージャーが入所時に説明を行っている。重症化した場合は、ご家族様、医師と話し合い、今後の方針を決定している。	看取り指針については、入居時に説明を行っている。契約時や看取り介護の開始時期には、利用者の状態変化ごとに、家族の意向を再確認しながら書面で記録を残し、本人・家族の納得する形での看取り支援を行っている。	
34	※	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルで対応できるように心掛けている。状況によっては、医師・看護職の指示をもらい対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・水害等の避難訓練を、自治体と共に行っている。利用者様にも参加をして頂いている。食品の備蓄や水タンクの準備も行っている。	コロナの影響で自治会との協同した訓練は行えていないが、ホームでの訓練は実施できている。これまでの経験から、ライフラインの復旧は早いですが、様々な災害に備え、今年度は、自家発電設備などの申請を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳・プライバシーに配慮した対応を意識している。	ケア会議での研修において、接遇をテーマに学んでいる。本人の安心感と共に、羞恥心への配慮がなされるよう、職員間で意識し合い、正しい言葉遣いでの声掛けを行っている。衣類の選択や身だしなみなどは、本人の自己決定を尊重している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の声に耳を傾け、日常会話の中からくみ取るようにして、自己決定出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人一人を尊重し、希望を聞きながら日々の生活を送れるように支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみに気をつけて散髪や髭そりの介助、又お化粧をされている方には、希望の物を預かり金の中から購入してお渡ししている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、個人にあった物を提供している。現在はコロナのため出来ていないが、以前はおやつ作りなど行っていた。	食材の購入は地元の商店を活用したり、近隣住民からの差し入れを活用するなど、地産地消に努めている。食事の準備では、出来る人が包丁を使って、皮むきや野菜を切るなど、利用者も可能な範囲で参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量は、記録用紙に記入している。バランスがとれた食事を提供できているかチェックしている。チェックをもとに栄養士から指導を受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床後と毎食後に利用者に合わせた口腔ケアの介助をしている。異常があれば歯科受診や往診をしてもらっている。		

岐阜県 コスモス苑「おおぞら」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人に合った排泄介助や声かけを行っている。状況が変わった時などは、みんなで話し合い対処方法を変えている。チェック表を付けて記録を共有し、自立に向けた支援を行っている。	基本はトイレでの排泄としており、個々に合わせた排泄支援を行っている。また、排泄用品はチェック表などで確認しながら、適切に選択するよう職員間で検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録によって把握しており、便秘気味の方には水分を多くとっていただいたり、水分ゼリーをとっていただいている。また、日中のレクリエーションで身体を動かしたり、緩下剤の使用をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	全体的入浴日は決めてあるがその日の状態や希望に合わせて変更の対応をしている。入浴剤や季節のお風呂の日を作り、変化を楽しんでいただいている。	入浴は週2回程度を基本としている。季節に応じて、さくら・ゆず・菖蒲湯など、入浴を楽しめるよう工夫している。リフト浴もあり、浴槽をまたぐことが困難な場合は、リフトによる安全な入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ちよく眠れるよう、温度調節や寝具に気をつけている。一人一人の生活習慣を尊重し、休みたいときには休んでいただいて、短時間の昼寝をしてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	適宜、薬情ををみて内服薬の理解をしている。配薬の間違いがなく個々の薬箱を用意し、服薬のチェック表を利用している。症状の緩和ができるように看護職と連携し状況の変化に対応している。		
48	※	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人一人の得意な事や好きな事、出来ることをやっていたりできるよう支援している。季節の行事やレクリエーションを行い楽しんで貰えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、外気浴や近くへの散歩が出来るように支援している。コロナ感染拡大のため苑外の外出は自由に出来ないが近場の美容院などへは出かけていただいている。	天気を見ながら外気浴などを実施している。また、近隣の美容室などへは、利用者の状態に応じて徒歩や車いすなどで出かけている。ホームの近くにある石碑に詣でることを日課にしている利用者もある。	

岐阜県 コスモス苑「おおぞら」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止のため預かり金を事務所で保管している。日用品や利用者様の要望の品を職員が購入してお渡ししている。コロナ感染症のため買い物の外出はできていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友人の方からの電話は自由にかけられている。また、リモート面会や手紙でのやりとりも出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々の掃除や季節の飾り付け、行事の写真の展示を行っている。苑庭に花や野菜を植えている。	共用空間には、利用者の手作り作品や写真、観葉植物などが飾られている。また、苑庭には桜の木や柿の木、家庭菜園などがあり、利用者と職員が共に収穫したり、花見や外気浴を行うなど、憩いの場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	中庭に椅子があり自由に出入りし使用できる。フロア内では職員が声かけし気の合う方と話せるよう声かけをしたり席を移動していただいたりして気配りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたテレビや写真、思い出の品などを持ち込み、自由に飾っていただいている。また、工作で作った飾りや季節の写真も飾っている。	居室には可動棚、ベッド、電動ベッドが共通して配置されている。利用者は、テレビなどを持ち込んで設置し、自身の手作り作品や写真などを思い思いに飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に自立した生活を送っていただけるよう手すりの設置や状況に合わせて家具の配置などを行っている。居室の位置や車椅子や押し車の置き場所にも配慮している。		